

人々の罪穢れを祓い言霊によって寿ぐ翁三番叟の源流

呪師猿楽

平安から鎌倉へ

新猿楽記

猿楽ノ態、陽ヲ断チ、踵ヲ解カズトイフコトナモナリ



令和6年

8月25日(日)

16:00 開演 15:30 開場

国立能楽堂

小笠原由禰
小笠原弘晃

制作 (一社) アトリエオガ ジャパン

文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業堂



おがさわら乃會 とは…

平安時代に庶民のあいだで栄えた「猿楽」という芸能が様式化、洗練され現在の「能・狂言」となり、その後650年間一度も途絶えることなく伝承されてきました。その過程で失われてしまった（良い意味での）野性味溢れるエネルギッシュな姿を再現する事を目的とした、様式美にとらわれない、新たな分野の狂言公演です。

SHUSHI-SARUGAKU 呪師・猿楽

『呪師・猿楽』では、平安から鎌倉時代にかけて存在した「猿楽」がどのような変遷をたどり「翁」に至ったかを考察し、その復元と創作に挑む。

悔過供養（「修正会」「修二会」）で行われた法呪師の加持祈祷を基にした呪師が穢い清め、日本古来の来訪神信仰である翁猿楽が言霊によって祝福する、「除魔と招福が一体」となっていたと考えられている。

新作狂言 SHIN-SARUGAKUKI

新猿楽記



平安中期に漢学者・藤原明衡が著した「新猿楽記」は、猿楽についての最古の文献として知られている。

明衡はこの中で、「猿楽法師の手馴れたしぐさや芸態、そのばかばかしい言葉のやりとりは、全く滑稽の限り。腸もちぎれ、おとがいの骨はずれんばかりに笑いこけさせないものはない」と記している。

この「新猿楽記」をもとに、失われた芸能の数々を現代に蘇らせるべく、新作狂言として創作・復元し、上演する。

2024年8月25日(日)

16:00開演 (15:30開場)

於 国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1
03-3423-1331



チケットサイト

SS席 6500円
S席 5000円
A席 2500円

チケットお申し込みは上記 QR サイト又は
メール: contact@atelieroga.com まで
お申し込みください。

平安から鎌倉へ

修験者である能楽師小笠原由詞は、長年に渡り観阿弥・世阿弥による能楽大成以前の神事から派生した猿楽の劇形態を探る活動をしてきた。今回はそれらを集約し上演に挑む。

第一部「呪師・猿楽」では、平安から鎌倉時代にかけて行われていた猿楽の姿を考証し上演。

(2012年上演、摩多羅神の舞ほか)

第二部「新猿楽記」では、平安中期に藤原明衡が著した「新猿楽記」に基づき、失われた芸能を現代に蘇らせる。

(2019年上演、新猿楽記ほか)

希少文献より古代芸能の姿を創作、再現し、平安から鎌倉時代にかけて猿楽（能楽の源流）がどのように形成されていったかを探求し上演することにより、混迷する現代世界における「祈り」の重要性を芸能祭祀を通じて問いかける。

面作家でもある小笠原由詞作の古代猿楽面を用い、仮面劇として構成される本公演は、通常の狂言では見られない演出によって、伝統芸能である能・狂言に潜在する新たな可能性を提示する。

企画・制作統括：小笠原由詞

演出：高橋浩

監修：大倉源次郎（能楽小鼓大倉流・大鼓大倉流宗家、人間国宝）

芸能協力：沖本幸子（東京大学総合文化研究科教授、日本古代・中世国文学・芸能研究者）

衣装協力：株式会社井筒企画

出演

小笠原由詞 小笠原弘晃 小笠原敬彩 稲葉明德 能村晶人



小笠原由詞
Tadashi Ogasawara

能楽師狂言方和泉流
重要無形文化財総合
指定保持者
野村萬 故八世野村
万蔵及び九世野村万
蔵に師事。東京・京都・
大阪・パリ「延年之會」
主宰。故八世万蔵の
高弟としてその率制
作品の全てに出演す
るほか、自身も数多
くの制作演出を行う。
パリ5区コンセヴァ
トワール特別講師。
仮面作家。



小笠原弘晃
Hiroaki Ogasawara

能楽師狂言方和泉流
公益社団法人
能楽協会会員
野村萬（人間国宝）九世
野村万蔵及び父に師事。
3歳で初舞台。
2023年には三番叟を抜く
2014年よりパリ留学
狂言普及活動の他、
フランス地方音楽院にて
音楽を学ぶ。
現在パリ第1パンテオン
ソルボンヌ大学在学。

お問い合わせ (一社) アトリエオガ
Mail: contact@atelieroga.com